

デイサービス、ケアマネ、要介護1、聞き慣れない言葉が家の中で飛び交い、我が家の雰囲気は随分変わった。そして、私の隣で「そうやったかな。」といつも呟いているのは私のおばあちゃんだ。私の家族は今年の八月に、福岡に住んでいた祖母を迎え入れ、五人家族になった。

母の出身は福岡県。里帰り出産のため、私は福岡で生まれ、祖母のところには小さい頃からよく遊びに行っていた。幼い私を感じていた祖母の優しさ、正義感の強さは今も健在だ。そんな祖母が認知症と診断されたのは約三年前。肺炎を患っていた祖父が入院中、祖母は毎日病院に通い、退院すれば在宅介護と必死に向き合い祖父に尽していた。そんな祖父を看取り、これからは自分の時間を生きていこうねと話してから少し経った頃だった。祖母には私の母を含め四人の子供がいるが、それぞれ名古屋、札幌、大阪と離れた県外に住んでおり、唯一熊本に住んでいた次男も神戸へ転勤となった。夫の死に続き、子供とも離れてしまったことが発症の引き金になったのではないかと考えられている。

私は、祖母と一緒に暮らすことに対して、単純に楽しみな気持ちの方が大きく、これからの非日常な生活に胸を踊らせていた。しかし、祖母にとってはそうではなかった。方言もあり、土地も人も全く分からず、気候も違う。半世紀以上住み慣れた土地を離れ、名古屋に来てから徐々に覇気がなくなっていく祖母を見て、やっと自分が同居について軽く考えすぎていることに気づいた。

私も、県外の高校に通うために、親元を離れて寮生活を送っている。だから、周りに誰もいない空虚感や寂しさはとても分かる。だからこそ、故郷を離れる祖母の気持ちを考えられなかったことがショックだった。私自身、三年たってもなお、ホームシックになることがあり、誰でも自分の住み慣れた家を離れることは簡単ではないと感じている。それでも今では、寮は私の第二の家であり、色々な思いが詰まった大切な場所になりつつある。

私の祖母は、認知症の中でも「アルツハイマー型認知症」に分類されるようだ。私なりに頭では理解しているつもりだが、実際に認知症について調べてみると、最後は家族の顔が思い出せない、徘徊、抑うつなどの言葉が目に入ってくる。見たくない単語を見てしまった感じがして、すごく怖くなってしまう。母はときどき呟く。「若い頃あんなに動いていたお母さんが、まさか認知症になるとは思わなかった」と。そう言っている母もいつかは認知症になるかもしれない。色々な場合を想定しながら、「認知症」という脳の病気、そして大好きな祖母としっかり向き合っていきたいと思っている。

普段は、一階の部屋で静かに横になっていることが多い祖母だが、最近デイサービスに通い始め、生き生きしている。初日に私を見るなり、「お留守番ありがとう」とニコニコした顔で帰ってきたときは、母と顔を合わせて笑い、また心から安堵した。中学三年生になる弟もよく祖母に話しかけており、その姿から学ぶことも多い。家族の団らんの場で

は、祖母を中心に話をすることが多く、前よりも家族の笑顔が増えたように感じる。ケアマネージャーさんによると、近年では、親を介護施設に入れるだけで、それ以上は何も面倒を見ないという子供が多いそうだ。そのため、私たちのことを稀に見る愛情に溢れた家族だと話していた。祖母の周りにこれだけ話しかけてくれる人がいたら、脳の老化はあっても、認知が進むわけない、とまで言われ、祖母を引き取ったことが正しかったのだと思えた。それと同時に、介護が必要な方でも、家族から十分な支援をしてもらえない場合が多いということに対して、何でだろうという言葉が何度も頭の中を巡った。みんなが誰かのために尽くせるような、お互いを助け合えるような社会になればいいなと思った。

祖母と暮らし始めてからもうすぐで二週間が経つが、「介護」とは、全てを綺麗事で解決できるような簡単なものではないと痛感させられる。短期記憶が難しくなり同じことを繰り返し話したり、デイサービスに行かない日は祖母も気分が落ち込むらしく、毎日フルで働いている母のことを、「私を放ったらかきにしている」と言うことがある。その話を聞いた母は涙していた。しかしその度にぶつかり合いながらも、祖母と向き合っていく母の姿は本当にすごいと思う。母は仕事柄、もっと福祉を学ぶために社会福祉士を目指し今年から通信教育で学び寸暇を惜しんで勉強している。そしてまた、そんな母を裏で支えている父の存在も不可欠だ。祖母が、携帯電話の充電器を私たちのスマホ用の充電器と間違えて差したため、祖母の携帯が充電出来なくなったことに対し、父は、「おばあちゃんの部屋にスマホ用の充電器を差していたこちら側が悪いよ」と言った。そんな風に言える父を心から尊敬している。

私の母は、前に認知症のことを「幸せ病」だといった。嫌なことは忘れるが、嬉しかった事や昔の記憶は消えない。辛いのは周りにいる人だね、と。実際のところどうなのかは本人にしか分からない。母が仕事で居ない時に寂しそうにしていたり、「友達に会いたい」と呟いていたりする時もあれば、「私は幸せ者だ」とにっこり話している時もある。きっとどれもその時々感じる本当の気持ちだと思う。私は、祖母に「ここに来て良かった」と心から思ってもらいたい。祖母を通して今感じる事、それは母たち兄弟の仲の良さ、きっと祖母は愛情一杯育てて来たんだろう、と。今はその恩返しとして祖母に一生懸命関わっている。観念ではなく実際に祖母と向き合う様になり、私自身見える景色と心のあり方が変わりつつある毎日。これからも一つ一つ大変なことが増えると思うが、その度に新しい発見や違った角度から物事を見れる私になっていきたい。認知症になった祖母に心から感謝出来る日が来るような気がしてならない。